

会 議 録

会 議 名		燕市健康づくり推進委員会		
事 務 局		健康福祉部健康づくり課		
開催日時		令和5年2月9日（木） 午後3時30分から午後5時00分		
開催場所		燕市役所 つばめホール		
出席者	委 員	齊藤委員、佐藤委員、外石委員、鈴木委員、板谷委員、遠藤委員、村澤委員、本間委員、金山委員、車田委員、川瀬委員、田村委員、本田委員、櫻井委員、岩田委員、八子委員 【欠席】坪川委員、玉木委員、治田委員、高波委員		
	事務局等	健康福祉部：本間主幹／健康づくり課：篠田課長、梅沢補佐、羽入田副主幹、高宮副主幹、高野副主幹、土岡係長、河合専門員、今泉専門員／保険年金課：近藤課長／長寿福祉課：梅田課長／社会教育課：廣田課長		
公開可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合はその理由				
次 第		<p>1 開 会 梅沢補佐</p> <p>2 あいさつ 齊藤会長</p> <p>3 議 題</p> <p>(1) 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度燕市自殺対策計画の進捗状況について ・令和4年度の主な事業の成果について <p>(2) 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人生100年時代の健康サポート事業の取り組みについて <p>(3) その他</p> <p>4 閉 会 本間主幹</p>		

令和4年度 第2回燕市健康づくり推進委員会 会議録要旨

日時：令和5年2月9日（木）

午後3時30分から5時00分

会場：燕市役所 つばめホール

<p>1 開 会 健康づくり 課長補佐</p>	<p>皆様お疲れ様です。</p> <p>定刻となりましたので、只今より、令和4年度第2回燕市健康づくり推進委員会を開催させていただきます。委員の皆さま方には、ご多忙のところお集まりいただきありがとうございます。</p> <p>本日、会議の進行役を務めさせていただきます健康づくり課課長補佐の梅沢と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>会議開催に先立ちまして、資料の確認をさせていただきます。</p> <p>(資料の確認)</p> <p>なお、第3次燕市健康増進計画における3つの基本目標に沿って関係各課が様々な取組を進めておりますが、本日の会議では、主担当課である健康づくり課の取組を中心に報告させていただきますのでご了承ください。</p> <p>本日の出席状況でございますが、坪川委員、玉木委員、治田委員、高波委員から欠席のご報告をいただいております。</p> <p>委員20名中、16名出席と過半数を超えておりますので、燕市健康づくり推進委員会規程第6条の2により本委員会は成立いたします。</p> <p>それでは、次第の2、齊藤会長より挨拶をお願いいたします。</p>
<p>2 あいさつ 会長</p>	<p>皆さんお疲れさまです。</p> <p>燕市医師会理事の齋藤です。</p> <p>本日はよろしくお願いいたします。</p> <p>燕市の健康づくりの推進のため、皆様の忌憚のない御意見をいただきたいと思っておりますので、活発な、御発言のほどよろしくお願いいたします。</p>
<p>健康づくり 課長補佐</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは次第3の議題にうつらせていただきます。進行につきましては、規程第6条に基づきまして、齊藤会長をお願いいたします。</p>
<p>3 議題 議長</p>	<p>それでは議題のほうに早速移りたいと思います。</p> <p>本日の会議終了は、おおむね5時を予定しておりますので、限られた時間の中での会議になりますので、円滑な議事進行にご協力をお願いいたします。</p> <p>早速(1)報告事項、令和3年度燕市自殺対策計画の進捗状況についてということで、事務局の方をお願いいたします。</p>

事務局 健康づくり 課副主幹	(1) 報告事項、「令和3年度燕市自殺対策計画の進捗状況について」 《事務局：資料1について説明》
議長	ありがとうございました。 今の報告事項に関しまして何かご意見ご質問ありませんでしょうか。 1点お聞きしたいのですが、自殺死亡率、20.8となっていますが、これどういう感じの数になりますでしょうか。
事務局 健康づくり 課副主幹	人口10万人に対してどれくらいの自殺者の割合があるかを示しています。
議長	では、10万人当たり20人ぐらいって感じですか、わかりました。 ありがとうございました。 他はよろしいでしょうか。 ないようですので、次の報告事項、令和4年度、主な事業の成果について、事務局の担当の方お願いします。
事務局 健康づくり 課専門員	・「令和4年度主な事業の成果について」 《事務局：資料2について説明》
議長	はいありがとうございました。 検診受診率向上にいろいろ対策をしていただいてやや改善傾向にあるのかなと思いますが、今の報告事項につきまして何かご質問ご意見ありませんでしょうか。
委員	3番の肝炎ウイルス検診の拡充についてですけど、特定健診になったことで社会保険の方は特定健診の日とは別の日に受診に行かなければならなくなり受診者は伸びなかったが、特定健診の日に同時実施するようにしたら、平成20年度から令和3年度まで14年間の受診者が、令和4年度1年間の受診者とほぼ同数の受診者があったという理解でよろしいですか。受けたい人が、受けづらかったというようなことでしょうか。
事務局	今回は、健診会場で対象者一人ひとりに肝炎健診を受けませんかと声かけをしたら、ご自身が対象者だったということも分からない方もいらっしゃいましたが、せっかくなので受けていこうかということで、多くの方から受けていただきました。
委員	その結果見つかった2名の方は、非常に良かったと思うのですが、検診の意義というか、500人弱の方が受けられたというのは、検診としてどのように評価していますか。また、専門の先生に相談されたりはしているのでしょうか。

事務局	<p>その結果に関してはまだ専門の先生には相談したりはしていませんで、ただ今まで、検診を受けていた中にB型肝炎が見つかった方がいらっしゃったのですが、その方はもう治療をすでにされていたりとか、結局受診されていた方が多かったです。今回の方は2名ですし、ということで、今年度に限っては声掛けをして、今まで平成14年から肝炎ウイルス検診を実施していたのですが、これまでは、受けますかとお聞きするだけだったのですが、今回は一人ひとり対象者に声をかけて力を入れてきたのが受診者増につながったと思います。2名の方に関してはどれだけの効果があったのか、医学的などころではまだ検証はしていませんが、機会を見て確認はしていきたいと思います。</p>
委員	<p>検診についての費用対効果の問題だと思います。私は、以前、福岡佐賀、長崎3県の、非常に肝炎が多い地域で、専門家から肝炎ウイルス検診を行ったことがあります。そういった地域で掘り起こしとして行い治療に結び付けることは、非常に効率もいいし、いいことだと思います。ただ、多くの人から受けてもらっても見つかる方がすごく少なければ、制度を見直すというのは難しいという問題もあるので、未受診者がどれだけいるのか、それと、この時代、肝炎ウイルスに新たに感染するリスクがどれくらいあるのか天秤にかけの必要があるのか検討いただければと思います。</p>
事務局	<p>今、肝炎の治療に関しても進んできている状況なので、またがん発見率との関係に関しては、専門の先生にお聞きしながら実施していきたいと思いますのでありがとうございました。</p>
議長	<p>他はよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>次、1番最後の10ページ目のところで実施状況として、健康づくり3団体による、地域での健康づくり活動というふうなことで書いてありますが、そのほかの団体と協議するのかっていうふうなことは、されているのか、食育とか眠育とかの形になってくると、あと身体運動の教室とかいうのは、スポーツ関係でもそういうふうな、教室関係を行ったり食育とか眠育とかっていう講演会とかも行ってはいますが、そういうところと同じテーブルで協議して同じ方向へ行くとかというふうな協議はされているのか、そういうことがなされて、資料3の人生100年時代の健康サポート事業というふうな方に結びついてくるかと思うのですが、今後そのような検討をされるか聞かしてください。</p>
事務局	<p>健康づくり3団体以外との活動については必要に応じて相談させていただいて一緒に取り組んでいるところです。保健推進委員と食生活改善推進委員、元気がき隊は健康づくり課とともに、地域での活動を行う団体ということでここに取り上げさせていただきました。</p>

委員	<p>ということは、それ以外とは、ちょっと言葉悪いですけどそれ以外のところとはあまりこうお話ししない協議しないといことでしょうか。</p>
事務局	<p>特に定期的に協議という訳ではないのですが、例えば健康づくりマイストーリー講座を行うとか、必要に応じて体育協会の方と協議させて頂いたり、医師会の先生方と協議させて頂いたり、社協の方々と協議させていただいたりしながら進めているような状況です。</p>
委員	<p>多分目指すところは同じだと思うんですね、皆さんがこうやって僕感じたのは、縦が主体になって横のところ連携がないから、同じようなことを皆さんやっているところが多いのではないかと感じてそこで横のつながりがあれば、逆にその無駄が省けてくるのではないかというふうに思っているんで、ぜひもっと、横のつながりをしていただいて、目標は同じなので、100歳まで元気で生涯スポーツしようというように、同じことだと思いますので、そのところをご検討いただきたいと思います。</p>
議長	<p>はい、ありがとうございました。 ほかは何かありませんでしょうか。 それでは、ないようですので、次ですが、(2)、協議事項、人生100年時代の健康サポート事業の取組について。 事務局担当の方お願いします。</p>
事務局 副主幹	<p>(2) 協議事項「人生100年時代の健康サポート事業の取組について」 《事務局：資料3について説明》</p>
議長	<p>はい、ありがとうございました。 まず、今の内容につきまして何かご質問ご意見等ありませんでしょうか。</p>
委員	<p>2点あります。一つ目は情報提供ということで、先ず、骨折・骨粗しょう症重症化予防事業について重要だと思うのですが、9ページに整形外科について記載がありますが、燕労災病院で骨折予防の取り組みを、再発防止の一環として手帳を作って、普段は、近くの整形以外の内科の先生でもフォローできるような病診連携をやっていた。検討していたのは令和2年度で、実際始まったのは令和3年度でした。燕労災病院で骨折を経験した人に実施していたものですが、労災に入院したことのない方でも内科の医療機関でも経過を追えるような取り組みにつなげられるように相談されてはどうかと思います。</p> <p>もう一点は、ハイリスクアプローチ全般に関してなんですけど、健康日本21を進める初期のころは、全体に健康づくりをアピールするのではなくて、ハイリスク者に絞って有効的なのということでかなり悩んだんですね。</p> <p>健康日本21を評価したときにハイリスクアプローチを失敗の1例と</p>

	<p>して特定健診なんかにも問題があって介護予防につなげるために健康教育をやったりしたが、すぐに来れない人がいたり、そこで差がついてしたり、来れない人はそのままになってしまい、そのような反省があることをある文献で読んだことがある。やはり、このハイリスクアプローチに含まれる事業を進めるに当たっては、交通手段といったものが重要になると思っていますので、きめ細かなことができるのが地元自治体だと思っていますので、個人の事情をよく把握して事業を進めて、重症化予防につなげられればよいと思います。それから、9ページの今後の方向性の3つ目にハイリスクアプローチでは、事業実施後に受診や生活指導につながりやすい対象の選定基準とありますが、来てくれる人に対象を絞るといふふうに取れるが真意はどういうことなのか聞かせてほしい。</p>
事務局	<p>レセプトから対象者を抽出しているので、ご本人自体が何の薬を飲んでいるのかわかっていない場合があります、受診歴とレセプトを組み合わせながらご本人が自覚しているような対象を選定基準としていきたいと考えています。委員にお聞きしたいのですが、燕労災病院に骨折でかかっている方に対して手帳は配付されているということでしょうか。そのようなツールがあると主治医の先生への受診もお勧めしやすくなるので、お聞かせいただけてよかったです。あと、この事業ではハイリスク者だけでなく、健康状態不明者に対しても関わるようにしています。そのような方についても実態把握をして関わって行きたいと考えています。健康づくりマイストーリー運動等の報告がなかった方に対しても同じですが、状況を把握し、健診や通いの場などにつなげていきたいと考えております。</p>
委員	<p>ありがとうございます。趣旨はよくわかりました。 燕労災病院に関しては、連携している内科はあるとか確認しておきます。</p>
本間主幹	<p>補足ですが、選定基準となっているのが、レセプトであったり、受診歴であったり、薬剤の情報であったりで、対象者を抽出して保健指導につなげるという状況ですので、その段階で、生活指導につながりやすいかどうかは判断できないので、実際に訪問をして、若しくは電話でお話をしながら判断していくのだと思うのですが、書き方が誤解を招く書きぶりでもうしわけありませんが、抽出した対象者には基本的に全員訪問をして治療につなげたりしていきたいし、骨その関係はもともとこの事業を始めるときに燕労災の今の院長先生が整形の先生でいらっしゃるので、相談させていただいた経緯もあります。お話を聞いた中で生かしていきたいと考えています。最後の交通手段の関係ですが、燕市もきららん号を持っているのですが、その方にとって使いやすいと言われるとそうでもないようですので、これからも皆さま方から知恵を絞っていただきたいし、私どもも考えていきます</p>

	のでよろしく申し上げます。
議長	他はよろしいでしょうか。
委員	9ページの今後の方向性の4つ目ポピュレーションアプローチについて、社会福祉協議会と連携する部分がありますので、質問ですけれど、今まで利用していない「通いの場」での健康教育を実施しとありますが、「今まで利用していない」の意味を聞かせてください。
事務局	今までポピュレーションアプローチの通いの場の健康教育、健康相談ということで健康づくり課として実施していなかった「通いの場」という意味です。健康づくり課で関わっている「サロン」「地域の場」では、歯科衛生士や、栄養士に指導していただいている。今まで関わっていない領域での健康教育をという意味で書かせていただきました。
議長	ほかはよろしいでしょうか。
委員	<p>歯科の立場から発言させていただきます。</p> <p>歯科に関しましては、生活を支える医療ということで、今まで口腔の健康を保つということで健康づくり課の検診事業にも取り組んできたという意味で、だいたい皆さんとも利害が関わっていて、施設の方もOA化に向けていろいろ歯頸内部も撮っていますけれども、なかなか医療費の削減につながらないところなのですが、口腔の健康を保つと医療費の削減に結び付くという様な事を例に挙げて毎年、政府の方からネットを通じて言われていて、ネットの方針に数年前からつなぐ日本、今年度は国民対歯科健診ということで準備が進んでいるような状況です。</p> <p>資料の3ページにあるように、フレイルは全身的な問題ですけれども、全身的な問題に先立ちまして、口腔内にどういう症状が出てくるかということ、普段の診療に当てはめてみると、左の健康と、右側の身体機能障害いわゆる要介護状態、このフレイルの状態です。早く気付いて早く対策を立てれば健康状態に戻りますし、そのままにしておくと介護状態になっていく。口腔内に出る症状としては、口腔ウイルスが、食べ残しであったり、口の中に症状はないが、今までより歯ごたえに違和感があったり、口が乾燥してくる。そのような症状があればかかりつけの歯科医院に相談することになりますが、どうしたらいいかということ、市の講座に通うとか、通うのが困難であれば体操でも、単音節発声「ア・ア・ア・ア」とか「ガ・ガ・ガ・ガ」とかそういう運動をしたり、あと、最近「カラオケ」がいいという話もあります。「カラオケ」は口全体を使いますので、また口の周りの筋肉も使いますし、あと、一人暮らしのかたが社会とのつながりを持つということで、それがリラックスして副交感神経が優位に立つと、唾液の分泌を促す物</p>

	<p>質で「コプシズール」というものが分泌されて口の乾燥を防ぐというのが知られています。そのようなこともフレイル予防に役立てて頂ければとおもいます。</p>
議長	<p>ありがとうございました。</p> <p>だいぶ時間もなくなってきましたのですが、あともう1点重要な点としまして、この人生100年時代の健康サポート事業というものをいかに市民の方に、認知度を上げるかというのが、一つの大きな課題だと思うのですが、この点につきましては何かご意見ありませんでしょうか。</p>
委員	<p>健診の制度や申込のこととかいろいろ変わりましたよね。近所に年寄りがいるのですが、健診に行きたくても行く方法がない。きららん号を頼めば、片道300円かかる。少ない年金の中から往復600円払って健診に行って何が得するのと言われました。健診の時少なくてもバスくらいは出してもらえないかと相談を受けました。</p>
事務局	<p>健診に関しては高齢者の方にも受診しやすいようにということで、予約に関しても、問合せに関しても対応できる体制を取っています。</p> <p>交通の問題に関しては、すぐにお答えはできませんが、皆さんの意見をお聞きしながら対応したいと思います。</p>
議長	<p>ありがとうございました。なかなか事業参加には交通手段という問題があるようですが、あとほか何か、認知度を高める方法について、ご意見ありませんでしょうか。なかなか、すぐに対応は難しいと思いますので一つの今後の課題とさせていただきます。</p> <p>それでは次に参りたいと思いますが、(3) その他、何か、事務局の方ありますでしょうか。</p>
事務局	<p>方針のところの説明すればよかったのですが、フレイル予防と健康づくりということで、健康づくり課だけではなく、社会教育課や体育協会など、いろいろなところと手をつないで、今後も健康づくりをして行きたいと思っておりますし、肝炎ウイルス検診について新潟大学の薛先生からご意見いただきましたけれども、栄養面でもいろいろな面でも薛先生に相談したいと思っております。肝炎につきましては、新潟大学の肝基幹センターの先生から検査数を増やすようにということで増やした経過があり、今後も続けていきたいと考えております。また、来年度は、計画を策定する予定ですので、皆さんの意見をいただきながら具体的な健康づくりの計画ができればよいと考えております。</p>
議長	<p>それでは全体を通しまして何かご意見ありませんでしょうか。</p> <p>特にないようですので、以上をもちまして、議題の方、終わらせていただきます。</p>
事務局	<p>齊藤議長ありがとうございました。</p> <p>それでは最後に閉会のあいさつを本間医療主幹お願いいたします。</p>

<p>本間主幹</p>	<p>本日は、お忙しい中をお集まりいただきましてありがとうございます。大変貴重なご意見ご指導いただきましてありがとうございます。燕市は健康3団体をはじめ、日頃から活動していただいている、ふるさと納税の流れで誇れるところだと思っております。医師会の先生をはじめいろいろ協力をいただいておりますので、この場を借りて感謝申し上げます。振り返りますと、3年前のちょうど今頃、ダイヤモンドプリンセス号でコロナが発見され、3年経とうとしています。今コロナの8波がようやく終息してきた状況です。ただ、この前報道にもありましたし、私どもにも通知があって、まだ正式発表ではないですが、ワクチン接種の方が秋ぐらいに、皆さまを対象に、特に高齢者の方や基礎疾患をお持ちの方を優先するというふうになりそうです。また、医師会の先生方をはじめ、皆さま方にもいろいろお世話になる事と思います。今回の議題の中にもありましたとおり、コロナ禍で、健診が思うように復活してくれない、いろいろ錯誤しているのですが、特にがん検診の受診率が上がらない。今ネットニュース等見ますと、反応が悪いのか初期に発見できないなど、いろんな報道が出ていますので、私共もいろいろ工夫をして、受けやすいような体制にさせていただきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思います。本日はどうもありがとうございました。</p>
<p>事務局 健康づくり 課長補佐</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>本日は長時間にわたりご審議いただきましてありがとうございます。</p> <p>以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。</p> <p>なお、次年度は、健康増進計画・食育推進計画・歯科保健計画の策定年でありますのでこの会議を年3回の開催を予定しております。日程が決まり次第、お知らせいたしますので、よろしくお願ひいたします。</p>